

地域一体となった豚繁殖・呼吸障害症候群ウイルス（PRRSV）対策への取り組み

西部家畜保健衛生所 とおややすこ 遠屋泰子、いなぎこうへい 稲垣光平

1. はじめに

複合感染の原因となる PRRSV 対策は、豚感染症の防衛対策の第一義的な取り組みである。知多半島は県内他地域に比べて大規模の企業養豚が多く、衛生レベルの高い農場もあるが、昔ながらの家族経営農場などでは衛生対策が不十分な場合もあり衛生レベルに差がある。そのため、地域全体の衛生意識を向上させる目的で地域生産者の防疫対策協議会（以下、協議会）とともに PRRSV 対策への取り組みを開始したので紹介する。

また出荷先については、全農家が A 又は B のと畜場に出荷しており、地域の別農場と株を共有するリスクがある（表 1、図 2）。

表 1 出荷先と畜場

出荷先と畜場	利用戸数
A	14
B	9
C	2
D	1

2. これまでの課題

PRRSV 対策のうち最も重要である母豚の免疫安定化方法について、管内農場では自家育成による母豚更新がほとんどであり、母豚ワクチン使用農場が少なく、自農場株にしか免疫を持たない農場が多数である（図 1）。

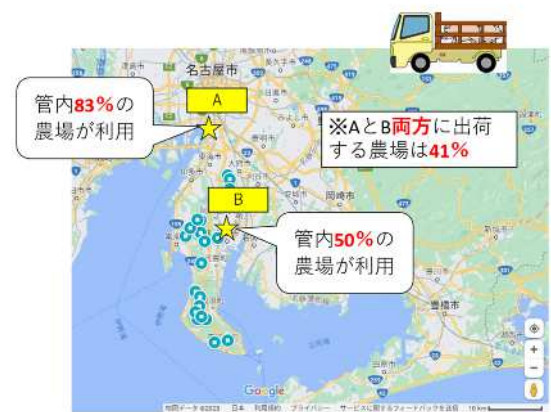


図 2 管内農場の分布と出荷先と畜場

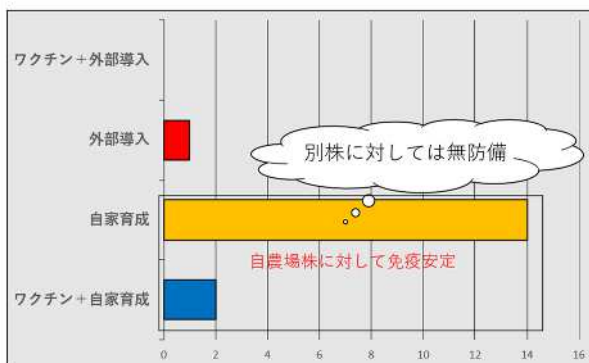


図 1 母豚の免疫安定化方法

実際に過去には近隣農場での株共有事例もあった（図3）。

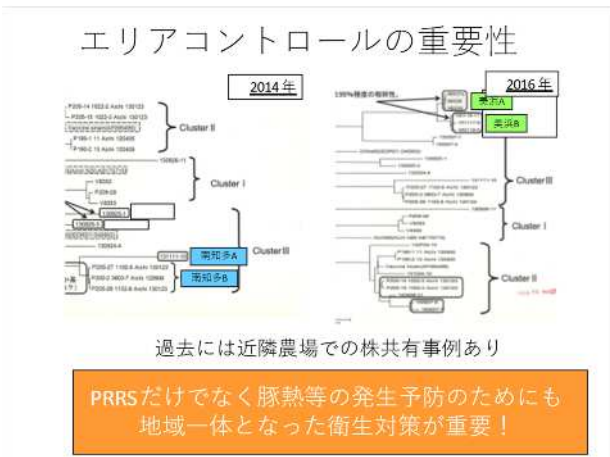


図3 過去の株共有事例

知多地域の過去3年間の感染状況は表2のとおりで、いずれの年も安定農場が多いものの、清浄農場に野外株が侵入し、流死産がみられた農場もあった。また令和2年と3年については、未実施あるいは不明農場の割合が多かった。

表2 管内一貫農場の感染ステージ分類（数値は戸数）

ステージ分類	R2	R3	R4	R5
I 不安定	0	1	0	0
II 安定移行	2	0	0	0
IIIa 安定※	2	2	4	7
IIIb 安定※	2	4	8	4
IV 清浄化移行	0	0	0	0
V 清浄化	3	0	2	6
不明	8	10	3	0

※IIIaは離乳豚で感染あり、IIIbは離乳豚で感染なく、肥育豚から感染。

3. 今年度の取り組み

(1) 地域生産者協議会との協議

地域一体となって対策を行うためにどうすべきかを地域の生産者協議会で協議。PRRS対策への農場ごとの意識の差をなくすため、各農場の感染状況や優良事例の共有を家保から提案したところ、生産者からも近隣農場の感染状況が知りたいと賛同が得られ、せつかくなれば全農場検査できるようにしてはどうかとの意見が出た。協議の結果、令和5～7年度までの3年間は協議会と各メーカーの協力を得て、全農場で発育ステージ別検査を実施することが決定した。また年に1回、協議会主催で生産者全員を対象とした全体勉強会を開催し、農場毎の感染状況及び優良事例を共有することも決定した。

(2) 検査実績及び指導事例

今年度は合計544頭を検査し、各農場の感染状況について個別検討会を10回開催した。そのうち1農場は、これまで発育ステージ別検査に前向きでなかったため、家保に株の情報なかったが、今回の全農場検査で初めて株を解析することができ、地域の近隣農場と同一株を共有していること、さらに最も近縁なのは県内他地域の株であることが判明した。検査結果を基に、出荷車両の消毒や豚舎毎の長靴履き替え徹底を指導した他、自農場の感染状況を把握するために半年に一度の発育ステージ別検査の実施と生ワクチンによる母豚免疫安定化を推奨している。

(3) 全体勉強会の開催

上半期の検査結果が出揃った後、PRRS 流行期の冬に向けて各農場が衛生対策を見直せるように令和5年9月に第一回全体勉強会を開催した。優良事例や、知多地域の感染状況(表2)について家保から情報提供したほか、一方的な講義だけで終わらないよう、生産者同士のフリーディスカッションの時間も設け、生産者同士で意見交換できるようにした(図4)。



図4 第一回全体勉強会

勉強会後のアンケートでは、参加者から「自農場の衛生対策を見直すきっかけになった」「知多半島の感染状況や農場の分布を知れてよかった」「知多地域の感染目標を設定する必要がある」などの意見が出た。

また勉強会後の検査では、今まで有料検査を受けたことのない2農場が有料で検査を受けるようになり、少しずつ生産者の意識が変わってきているように感じる。

4. 今後の方針

地域全体の衛生対策をより一層向上させるため、検査をして終わりではなく、検査結果に基づく衛生指導を継続すること、また生産者全員を対象とした全体勉強会等により地域全体の衛生対策意識を醸成することが重要であり、今後も継続していく。

さらに、被害の大きくなる若齢での感染をなくすため、陽転豚舎での環境検査を実施し、汚染度を調査するとともに、人手が足りない農場でも取り組みやすいよう、汚染度に応じて優先すべき対策を決定し、指導していきたい。